

今回登録される建造物の概要

<旧東北帝国大学理学部生物学教室ほか 8件>

東北大学片平キャンパスは、東北帝国大学（明治40年設立）発祥の地であり、かつ、東北帝国大学設立以前から第二高等中学校（のちの第二高等学校）、仙台医学専門学校、仙台高等工業学校等の敷地として使用されていました。全域が東北大学の管轄となった現在も、さまざまなルーツを持つ建造物が残っています。

片平キャンパス内では、平成29年の旧仙台医学専門学校六号教室（東北大学魯迅の階段教室）など5件に続き、このたび8件の建造物・工作物が登録されることとなります。

名称	建築年代
きゅうとうほくていこくだいがくりがくぶせいぶつがくきょうしつ 旧 東北帝国大学理学部生物学教室	大正13年／平成7年・令和元年 改修
特徴	
<p>鋭角な敷地にV字形平面を持つ鉄筋コンクリート造三階建て校舎。外壁は、腰を石積風のモルタル塗、上部を煉瓦タイル貼とし、縦長窓を並べる。プロポーションと細部装飾にバランスが取れた逸品。</p>	
	
【写真：仙台市教育委員会提供】	

名称	建築年代
<small>きゅうとうほくていこくだいがくほうぶんがくぶだいにけんきゅうしつ</small> 旧 東北帝国大学法文学部第二研究室	昭和2年／平成16年改修
特徴	
<p>鉄筋コンクリート造三階建て。頂部に切妻破風<small>きりづまはふ</small>を掲げた正面中央の張り出しに、アーチ窓と矩形窓を並べ、その間に煉瓦タイルを貼る。その他窓枠も煉瓦で縁取るなど、総体にアクセントを付けた愛らしい校舎。</p>	
	
【写真：仙台市教育委員会提供】	

名称	建築年代
<small>きゅうとうほくていこくだいがくこうがくぶきかいがくおよでんきがくきょうしつ</small> 旧 東北帝国大学工学部機械学及び電気学 教室	昭和5年／平成19年改修
特徴	
<p>鉄筋コンクリート造地上三階地下一階建て。正面中央は玄関を突出させアーチを付し、外壁は石張りとして塔屋を掲げ、装飾を集中して意匠を凝らす。</p>	
	
【写真：仙台市教育委員会提供】	

名称	建築年代
<small>きゅうとうほくていこくだいがくこうがくぶ きかいがくおよ でんきがくじっけんしつ</small> 旧 東北帝国大学工学部機械学及び電気学実験室	昭和4年／平成25年改修
特徴	
<p>鉄筋コンクリート造二階建て。ステンドグラスを掲げた玄関と階段を中央に配する。教室校舎と同様に上下二層の色使いが目立つ、意匠が明快な分館。</p>	
	
【写真：仙台市教育委員会提供】	

名称	建築年代
<small>きゅうせんだいこうとうこうぎょうがっこうけんちくがっかどう</small> 旧 仙台高等工業学校建築学科棟	昭和5年／平成26年改修
特徴	
<p>鉄筋コンクリート造三階建て。スクラッチタイル貼に横長の連続窓を開けて壁面を張り出す二階・三階の外観は、当時の前衛芸術運動・バウハウスの影響が感じ取れる。一階に通路を通し、アーチにSKKの校章を付す。</p>	
	
【写真：仙台市教育委員会提供】	

名称	建築年代
<small>ほんだ きねんかん</small> 本多記念館	昭和 16 年 / 平成 6 年改修
特徴	
<p>旧東北帝国大学金属材料研究所創設者・本多光太郎博士の在職 25 周年を記念して建てられた建造物。鉄筋コンクリート造地上三階地下一階建て。柱形が強調されたタイル貼の外壁に矩形窓を並べる。玄関車寄から前方に張り出す大キャノピーが目を引く。</p>	
	
【写真：仙台市教育委員会提供】	

名称	建築年代
<small>きゅうせいだい に こうとうがっこうせいもん</small> 旧制第二高等学校正門	明治 22 年頃 / 昭和 11 年・同 20 年・ 同 25 年・同 43 年, 平成 8 年移築
特徴	
<p>東北大学正門から南約 100m に所在する門。化粧煉瓦積角柱の上部に四角錐の笠石を載せる。移転を重ねたが、ほぼ当初位置に旧観を取り戻した。</p>	
	
【写真：仙台市教育委員会提供】	

名称	建築年代
<small>きゅうとうほくていこくだいがくせいもん</small> <small>とうほくだいがくせいもん</small> 旧 東北帝国大学正門（東北大学正門）	大正 15 年／昭和 40 年代改修
特徴	
<p>片平キャンパス西面に開く正門。鉄筋コンクリート造御影石張りの角柱にペン先状の三角形の柱頭を載せる。南本柱に東北大学の門標を付し、旧帝国大学の偉観を表す。</p>	
	
<p style="text-align: right;">【写真：仙台市教育委員会提供】</p>	

<東北学院大学正門 1件>

仙台神学校を源流とする東北学院は、明治24年、現在の南町通りに最初の校舎を開きました。その後大正時代に入り、土樋に敷地を求めて専門部の施設を拡充、大正15年には専門部（現在の本館）と正門が完成します。

東北学院大学土樋キャンパス内では、正門のほか、正門奥の本館・礼拝堂・大学院棟の3件が平成26年に登録されており、また敷地西端には重要文化財東北学院旧宣教師館も所在します。

名称	建築年代
とうほくがくいんだいがくせいもん 東北学院大学正門	大正15年／昭和60年改修
特徴	
土樋キャンパス北辺中央に位置する門。鉄筋コンクリート造洗出しに目地を切って石張りにみせる。脇門はコーニス（帯状装飾）やデンティル（歯型模様）で飾り、TGと十字架の校章を付す。歴史ある私学の表構えを形成。	
	
【写真：東北学院大学崎山俊雄撮影・仙台市教育委員会提供】	

<男山本店酒造蔵 1件>

男山本店は大正元年創業の蔵元で、酒造蔵は一連の醸造及び貯蔵が行われる建造物として、敷地の中核をなす建造物です。創業以降より増改築がなされ、大正後期にほぼ現在の規模になったといわれます。酒造のシステムを内包する建造物としてのみならず、敷地内の客座敷や内湾に面する店舗（いずれも登録有形文化財）とともに気仙沼の歴史景観を継承しています。

名称	建築年代
<small>おとこやまほんてんしゅぞうぐら</small> 男山本店酒造蔵	大正3年頃／同9年頃増築，昭和4年頃改修
特徴	
木造一部土蔵造棧瓦葺きで，南面に金属板葺きの下屋を付す。内部は，東から三号蔵・仕込蔵・中蔵が並び，下屋に煙突付き釜場と槽場 ^{ふなぼ} を配する。三棟を一体化した大きな外観は，醸造施設の景観を印象付ける。	
	
	
【写真：気仙沼市教育委員会提供】	

<孝子堂 1件>

江戸時代、姉妹が父親と田んぼで草とりをしていたところ、通りかかった侍に泥がはね、父親が切り捨てられました。姉妹はその後江戸に出て武芸を積み、仇討ちを果たします。この話は後に「碁太平記白石^{ごたいへいきしろいしばなし}噺」として歌舞伎や浄瑠璃などの演目となり、広く全国に知れ渡ります。

孝子堂は、この白石噺に登場する姉妹及び父を祀る堂宇で、大正15年に地域有志の発起により、物語の舞台となった当地に建てられました。

名称	建築年代
孝子堂 <small>こうしどう</small>	大正15年
特徴	
<p>白石噺ゆかりの小堂で、物語の舞台となる水田（八枚田）を見下ろす丘に所在する。方一間^{ほうぎょうづくり}宝形造銅板葺き、正面に向拝^{ごはい}を付す。小堂ながら細部に^{しょうしゃ}潇洒な意匠もみられ、姉妹の悲話を体現するかのような、繊細な印象を与える建造物。</p>	
	
【写真：白石市教育委員会提供】	

<竹駒神社馬事博物館 1件>

竹駒神社馬事博物館は、仙台城跡伊達政宗騎馬像（初代）原型試作品ほか、馬にかかる資料を展示する博物館で、昭和13年に開館しました。和と洋の意匠がうまく調和し、均整の取れた外観は高く評価され、また、古くから馬市が開かれていた竹駒神社の歴史を物語る建造物としても重要といえます。

県指定有形文化財の唐門、市指定有形文化財の楼門・境内三社とともに神社境内景観を形成する建造物です。

名称	建築年代
たけこまじんじゃばじはくぶつかん 竹駒神社馬事博物館	昭和13年

特徴

竹駒神社境内、大鳥居の北側に位置する。基礎及び床を鉄筋コンクリート造、上部を木造とした平屋建て寄棟造銅板葺き。切妻造の車寄玄関を付し、鴟尾・懸魚・墓股など和風の細部意匠を持つ。日本趣味が満ち溢れる専門博物館。



【写真：竹駒神社撮影・岩沼市教育委員会提供】